



あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

(ルカによる福音書6章36節)

Therefore be merciful, just as your Father also is merciful. (Luke 6:36)



### 2022 九州学院入学式

## 高校357人・中学校112人が入学 ～3年ぶりに総合体育館で式を挙行～



(中高合同で開催した対面式[於・九州学院グラウンド])

4月9日(土)、九州学院総合体育館において2022年度九州学院高等学校・中学校入学式が挙行されました。過去2年は新型コロナウイルスの影響で各教室に分散して入学式でしたが、今回3年ぶりに新入生と保護者が一堂に会するなかで式を執り行うこと

ができました。なお、感染症予防の観点から会場内全員のマスク着用や換気の徹底などに加えて、入学式の間短縮のため来賓の方々には今回もご臨席を控えていただきました。九州学院の新たななごまに加わった新1年生は、高校357人、中学校112人の合計469人です。この入学式で正式に全員の入学が認められました。学校長式辞に続いて在校生代表による歓迎の言葉が、内田千景中学校生徒会長と来海源友高校生徒会長から新入生に贈られました。その後、新入生代表による誓いの言葉を、中学生は漆島天音さんが、高校生は磯田千華さんがそれぞれ阿部校長の前で述べました。式次第を簡略化して実施したため入学式は



例年よりも短時間で終了しました。九州学院関係者一同は新入生の皆さんを歓迎しますとともに、九州学院での新たな生活と学びの上には、神さまの祝福と恵みが豊かにありますようお願いいたします。週が明けた4月11日(月)、中高合同の対面式を九州学院校内グラウンド(全天候型トラック・人工芝フィールド)で開催しました。当日の天候は雨予報でしたが、無事に全学年の生徒がグラウンドに勢揃いして式を実施することができました。キリスト教を教育の基礎におく九州学院では、初めに必ず礼拝のときをもちます。この朝も小副川幸孝院長・チャプレンの司式で、4月の月間讃美歌である「いつくしみ深き」(讃美歌312番)を

### 見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。



—コリントの信徒への手紙2 4章18節—

九州学院院長・チャプレン 小副川 幸孝

戦争と疫病、この二つは有史以来人類が常に直面し続けてきた最大の危機だと言えます。その戦争と疫病が二つとも同時に襲っているのが現状です。新型コロナウイルスの感染の拡大は、わたしたちの生活を一変させ、マスクをつけての生活がもう3年も続いています。また、ロシアによるウクライナ侵攻は、現代にあっては信じられないくらいの状態をもたらし、わたしたちの生活を支える経済活動にも大きな影響を与えています。

学校生活でも、いくつかのこれまでの学校行事の変更や授業の形、部活動の形態の変更を余儀なくされました。今後の世界の様子も案じられるところです。

しかし、こうした状況の中で生きるために大事なことがあります。それは、目に見える現象に振り回されないで、しっかりした信頼をもって日々を過ごすことです。不安は人間の本質でもありますが、内外の不安に押しつぶされ、現象の変化に右往左往するか、それとも大きな信頼をもって日々を過ごすかには大きな違いがあります。

聖書は、「見えないものに目を注ぐ」ことによって、たとえどんな状況下でも深い信頼をもって日々を過ごしていく姿を教えます。その聖書の教えに立って教育を行う九州学院の教職員、卒業生、生徒、保護者の皆様が、こんな時代だからこそ大きな信頼をもって日々を過ごされることを心からお祈り致します。

4月1日(金)、第10代九州学院院長に、前年度までチャプレンおよび副院長を務めてきた小副川幸孝氏が就任しました。なお、小副川氏はチャプレン(学校付牧師・第19代)も引き続き兼任いたします。また、同日付でこれまで第9代九州学院院長(2014年4月～2022年3月)を務めた九州学院中学校・高等学校校長を兼任してきた阿部英樹氏は、引き続き中高校長としての重責を果たします。小副川院長は「これからも正しい知識を身に付け、豊かな感性を育み、危機を乗り越えることができる体力を養い、心も体も生き生きとした青少年の教育のために、またそれによってそれぞれの賜物を生かして『愛と平和で人々に貢献する』ことができるよう教育を行っていききたい」との抱負を語りました。皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

### 小副川幸孝氏第10代院長就任 (チャプレンを兼任)

「いつくしみ深き友なるイエスは、われらの弱きを知りて憐れむ。悩み悲しみに沈めるときも、祈りにこたえて慰めたまわん」「いつくしみ深き」より  
失意の中にある時、私たちに希望を持つことが難しいことがあります。艱難辛苦の中で、「なぜ自分だけが…」と自問自答したり、やりばのない気持ちを誰かに向けたりする。もし、ありのままの自分を受けとめてくれる人がそばにいてくれたら、どれほど慰められることでしょう。苦難を経験したシメオンにあって、イエスは祈りにこたえて慰めを与えてくれる存在でした。彼はこの詩を通して、イエスがいつも「一緒にいてくれることを、私たちに伝えたかったのだ」と思います。祈りにこたえてくれる存在を求めるときに、九州学院で共に歌ったこの讃美歌が、心に響くことを願っています。

### 祈りにこたえて



毎年、新入生を迎える4月には、朝の礼拝で讃美歌「いつくしみ深き」を歌います。かつて私が九州学院に入学した頃

にも、この曲を歌ったことを忘れられませんでした。讃美歌は、教会でクリスチャンたちが歌うものと思っていました。礼拝で先生や学友たちと一緒に歌う九学の伝統に驚いたからです。今日でもチャペルで行われる成人の日の記念礼拝や同期生が集う礼拝で、この曲が歌われています。また、キリスト教式の結婚式でもよく歌われます。作詞したジョセフ・シメオンは、アイルランドで牧師となつてもなく、結婚者を得ましたが、彼女は不慮の事故のために結婚式を前にして天国の人となります。悲しみに打ちひしがれた彼は、慰めと平安を神に祈り求めました。そして、環境を変え、ことを決意してカナダに渡ります。新天地で、彼は教会の仕事に励み、やがて結婚者が与えられます。しかし、その彼女もまた、重い肺病を患って結婚前に天に召されたのです。結婚者を2回も続けて失った彼の嘆き悲しみは、どれほどのものだったでしょう。彼には、遠くの地で息子を案じながら闘病生活を続けている母親がいました。彼は、耐え難い苦しみを味わっていました。母親を励ましたいという一心から、心の重荷を神にゆだねる祈りを詩の形にしたのでした。こうして1855年、「いつくしみ深き」の歌詞が生まれ、美しい旋律を伴って、世界で最も親しまれる讃美歌の一つになりました。

2022年度の進路状況について

進路指導部長 松本 郁

今年度の四年制大学の合格者数は、国公立大27名(うち現役19名: 弘前(農学生命科学)九州工業、大分(工)佐賀(教育)、鹿児島(工2)、宮崎大(農)、福岡教育、熊本(医看2)、北九州市立(国際環境工)熊本県立7(総管6、文1)、防衛大学校(理工)、過年度卒8名:九州(経済)、大分(医)山口(国際総合)、熊本(理、工、文、教育2)、私立大343名(うち現役一般入試81名: 亜細亜、桜美林、神奈川、女子美術、成蹊、東京農業、東洋、武蔵、武蔵野美術、明治学院、相山女学園、中部、大谷、京都産業、京都橘、阪南、奈良、広島文教、岡山理科、九州産業、久留米3、西南学院3、福岡8、福岡女学院、長崎外国語、熊本保健科学4、熊本学園21、崇城5、平成音楽)、総合型選抜入試21名、公募推薦入試19名、スポーツ推薦入試42名、指定校推薦入試合計138名(うち同志社12、福岡13、熊本学園29)でした。また、短期大学3名、専修・各種学校36名が合格しています。就職内定者8名(公務員7、一般1)、となっています。今春卒業生336名の進路決定状況は、四年制大学78.6%(前年比+2.7%)、短期大学0.9%(前年同)、専修・各種学校10.1%(-4.0%)、就職2.4%(+1.2%)、海外進学等なし(前年同)、予備校等(受験準備)7.4%(前年同)でした。地域別で見ると、熊本県内への進学者は28.5%(昨年33.3%)、県外進学者のうち関東には24.5%(昨年26.9%)、関西には11.6%(昨年10.4%)、福岡には24.5%(昨年22%)が進学しました。コロナ禍という非日常に合わせ、共通テストが難化するという厳しい受験を強いられましたが、3年連続で医学部医学科に合格するなど、生徒は目標に向け全力でがんばりました。指定校推薦については、今年度は162(昨年は157)もの4年制大学から推薦依頼が寄せられ、同志社大から23名、福岡大から24名、熊本学園大との高大接続特別入試制度により44名の枠をいただきました。進路指導部としては、このような連携関係を大切にするとともに、進路先で充実した学業生活を送れるように、日頃の基礎学力の向上と進路希望に合わせたサポートを強めていきたいと考えています。

1991(平成3)年4月着任。授業で音楽指導にあたり、奏楽に礼拝や式典での奏楽奉仕など、多岐にわた



退職

岩尾 美樹 達哉 仙波 達哉 上村 恭徳 岩尾 美樹 藤本 美久

新任・再任

鶴崎健太郎 西郷虎太郎 岩崎 拓也 藤本 美久

教職員異動

敬称略

田島 美穂(芸術[音楽])

新任・再任

第74回卒業証書授与式を挙行

この春に開催された全国大会において本校生徒が躍動しました。3月22日(火)~25日(金)に大分県で実施された「令和3年度全国高等学校選抜自転車競技大会」男子学校対抗で、自転車競技部が準優勝しました。学校対抗はトラック種目・ロード種目の個人成績を計算して競うもので、今大会では並江優作選手が

3月1日(火)、九州学院総合体育館において九州学院高等学校第74回卒業証書授与式が挙行され、336人が節目の日を迎えました。開式の辞、讃美歌、聖書朗読・祈祷の後、卒業証書授与が行われました。各担任が卒業生の名前を一人ずつ読み上げ、阿部英樹校長から卒業生代表に卒業証書が授与されました。熊本県知事賞、日本私立中高連合会賞、熊本県高等学校体育連盟特別表彰、熊本県高等学校文化連盟特別表彰が授与された後、阿部

高校 剣道部と自転車競技部が全国選抜大会で準優勝!

全国高等学校柔道選手権大会 個人戦男子無差別級で、牧野泰晟選手が3位入賞を果たしました。翌21日(日)に行われた男子団体戦では2回戦で強豪の高川学園高校(山口)に1対2の僅差で敗れました。3月24日(木)、愛知県で実施された「第45回全国高等学校ハンドボール選抜大会」男子1回戦では、こちらも強豪の高知中央高校に後半猛追しましたが、27対28で惜敗しました。



また、3年前まで招待しておりました来賓の方々、卒業後50年30年を経過した皆さまには、今回もご臨席を控えていただきました。開式の辞、讃美歌、聖書朗読・祈祷の後、卒業証書授与が行われました。各担任が卒業生の名前を一人ずつ読み上げ、阿部英樹校長から卒業生代表に卒業証書が授与されました。



校長が式辞で卒業生と保護者に祝福と感謝の言葉を述べました。その後、在校生送辞を来海涼友生徒会長が行い、校歌斉唱をはさみ、阿部英樹校長が卒業生を代表して感謝の思いを込めた答辞を読み上げました。開式後には記念品贈呈が行われ、最後に卒業生から保護者へ感謝を伝えるサプライズ映像が上映されました。S74回生の皆さまと保護者の皆さまの皆さまの恵みがますます豊かになりますようにお祈りいたします。

2021(令和3)年度 事業活動収支計算書

(単位:百万円)

Table with 4 columns: Category, Sub-category, Amount, and Balance. It details the financial performance of the school's activities for the fiscal year 2021, including income from students, grants, and other sources, and expenses for personnel, materials, and other costs.



(修了証をもって記念撮影 ※撮影時のみマスク非着用)

SDGsチャレンジプロジェクト報告会。3月30日(火)、昨年10月から本年3月にかけて本校生徒有志18人が取り組んできた「まちなかで実際にお店を出してみる! SDGs チャレンジday」の最終報告会が開催されました。報告会にはゲストとして一般社団法人マチ

SDGsチャレンジプロジェクト報告会。3月30日(火)、昨年10月から本年3月にかけて本校生徒有志18人が取り組んできた「まちなかで実際にお店を出してみる! SDGs チャレンジday」の最終報告会が開催されました。報告会にはゲストとして一般社団法人マチ

SDGsチャレンジプロジェクト報告会

中高各学年で特別企画(高3は研修旅行代替企画) 4月14日(木)と15日(金)に中高では各学年で特別企画を行いました。



学友会活動成績 (1月1日～5月8日)

高校

ハンドボール部

令和3年度第45回全国高等学校ハンドボール選抜大会 (愛知県) (3月24日)

令和4年度第72回全九州高等学校ハンドボール競技大会熊本県予選 (4月17日)

鹿本体育館

第25回西日本地区選抜熊本カップ (5月5日)

山鹿市総合体育館

柔道部

第44回全国高校柔道選手権大会熊本県大会 (1月15日～16日)

八代市立総合体育館

男子団体 1位

女子団体 3位

男子個人60kg級 1位 天川 曜裕(2年)

男子個人66kg級 3位 竹部 颯真(2年)

男子個人73kg級 3位 村山 永遠(1年)

男子個人無差別級 3位 村山 永遠(1年)

男子個人無差別級 1位 牧野 泰晟(2年)

3位 松尾駿太郎(2年)

女子個人57kg級 1位 吉村 美祐(2年)

女子個人無差別級 2位 益田 実夢(1年)

第44回全国高校柔道選手権大会 (3月20日～21日)

東京都日本武道館

男子団体 2回戦敗退

男子個人60kg級 2回戦敗退

天川 曜裕(2年)

男子個人無差別級 3位 牧野 泰晟(2年)

弓道部

第35回熊本県高等学校一年生弓道大会 (3月20日)

熊本市植木弓道場

個人 4位 金子 愛世(2年)

第4回熊本市内高校生弓道大会 (5月1日)

熊本市植木弓道場

男子団体

2位 男子Aチーム

3位 男子Bチーム

女子団体

2位 女子Aチーム

野球部

第150回九州地区高等学校野球熊本大会 (3月21日～4月3日)

リッパーク藤崎台球場

1位

陸上競技部

第62回熊本県高等学校クロスカントリー大会 (1月6日)

県農業公園カントリーパーク

高校男子6000m 1位 竹割 真(3年)

2位 永本 脩(2年)

4位 村上 直弥(2年)

5位 浦上 和樹(3年)

男子第45回春の高校伊那駅伝2022 (3月20日)

伊那市陸上競技場発着、高遠町商店街折返しコース

7位

1区区間賞

永本 脩(2年)

令和4年度熊本陸上競技選手権大会兼国体一次予選会 (4月23日～29日)

熊本県民総合運動公園陸上競技場

男子1500m 5位 長谷川軍治(3年)

男子5000m 1位 永本 脩(3年)

3位 村上 直弥(3年)

3位 村上 直弥(3年)

1位 鳥丸 沙葵(2年)

女子1000m 1位 鳥丸 沙葵(2年)

女子4x100mR 3位

女子U181000mH 3位 樋口愛実華(1年)

男子ジュニア3000m 1位 相山 一颯(1年)

3位 植田 圭祐(1年)

4位 一ノ瀬来祈(1年)

6位 雑賀 永照(1年)

第31回熊本県私立陸上競技大会 (4月29日)

水前寺競技場

男子200m 5位 中村聖次郎(1年)

6位 ダイロ拓磨(2年)

男子400m 2位 ダイロ拓磨(2年)

男子800m 1位 長谷川軍治(3年)

3位 岩根 正悟(2年)

男子3000m 4位 相山 一颯(1年)

6位 植田 圭祐(1年)

男子5000m 1位 永本 脩(3年)

2位 迫 紘太(2年)

3位 村上 直弥(3年)

4位 佐藤我駆人(2年)

5位 木下 蒼士(3年)

6位 船越 碧(2年)

男子4x100mR 4位

女子1000m 1位 鳥丸 沙葵(2年)

2位 小山栄美理(2年)

3位 青木 菜摘(3年)

5位 後藤 ゆら(2年)

6位 野村 舞(1年)

女子200m 1位 小山栄美理(2年)

3位 青木 菜摘(3年)

5位 吉村 千優(1年)

6位 後藤 ゆら(2年)

女子400m 1位 松岡 結(1年)

2位 大石 南(1年)

5位 樋口愛実華(1年)

女子1000m 1位 鳥丸 沙葵(2年)

2位 樋口愛実華(1年)

5位 太田 葵(1年)

女子4x100mR 1位

第31回全国高等学校剣道選抜大会熊本県予選 (1月15日)

山鹿市総合体育館

1位

第31回全国高等学校剣道選抜大会 (3月27日～28日)

山鹿市総合体育館

1位

愛知県春日井市総合体育館

1位 迫 紘太(2年)

2位 鳥丸 沙葵(2年)

女子4x400mR 5位

令和3年度全国高等学校選抜自転車競技大会 (3月22日～25日)

別府競輪場

2位 スプリント

3kmインデヴィデュアル 2位 福永 隼人(2年)

アルパシユート 2位 並江 優作(2年)

スクラッチ 5位 徳永 真粹(2年)

1kmタイムトライアル 7位 船津 光星(2年)

学校対抗総合 2位 20点

第25回西日本地区自転車競技大会 (4月16日～17日)

別府競輪場

4kmチームパシユート 1位 福永・徳永

並江・中原

4km速度競争 1位 徳永 真粹(3年)

ポイントレース 3位 並江 優作(3年)

男子総合 3位

令和3年度全国高等学校選抜自転車競技大会 (3月22日～25日)

別府競輪場

2位 スプリント

3kmインデヴィデュアル 2位 福永 隼人(2年)

アルパシユート 2位 並江 優作(2年)

スクラッチ 5位 徳永 真粹(2年)

1kmタイムトライアル 7位 船津 光星(2年)

学校対抗総合 2位 20点

第25回西日本地区自転車競技大会 (4月16日～17日)

別府競輪場

4kmチームパシユート 1位 福永・徳永

並江・中原

4km速度競争 1位 徳永 真粹(3年)

ポイントレース 3位 並江 優作(3年)

男子総合 3位

2022年熊本県自転車競技選手権大会トラックレース (4月29日～30日)

久留米競輪場

1kmタイムトライアル 1位 福永 隼人(3年)

3kmインデヴィデュアル 1位 福永 隼人(3年)

アルパシユート 1位 並江 優作(3年)

スクラッチ 1位 並江 優作(3年)

ケイリン 1位 福永 隼人(3年)

バスケットボール部

熊本県下高等学校新人バスケットボール大会 (1月15日・16日・22日・23日)

益城町総合体育館

1位

全国高等学校交流バスケットボール大会 (3月26日～27日)

山城総合運動公園体育館

6位

南九州四県対抗選手権大会熊本予選 (4月10日・16日・17日)

山鹿市総合体育館

1位

南九州大会 (4月23日～24日)

大分県中津ダイハツアリーナ

1位

ラグビー部

全九州高校新人ラグビー大会熊本県予選 (1月29日)

熊本県民総合運動公園

2位

全九州高校新人ラグビー大会 (2月19日)

熊本県民総合運動公園

2位

800m自由形 2位 橋本 希美(3年)

1000m自由形 2位 橋本 希美(3年)

1000m背泳ぎ 2位 奥村くらら(2年)

1000m平泳ぎ 2位 小川 凜(2年)

200m平泳ぎ 1位 小川 凜(2年)

100mバタフライ 1位 小川 凜(2年)

50mバタフライ 1位 小川 凜(2年)

200m個人メドレー 1位 津地 佑輔(2年)

400m個人メドレー 3位 米田 裕(2年)

50mバタフライ 6位 山下 楽偉(1年)

50m自由形 2位 奥村くらら(2年)

200m自由形 1位 橋本 希美(3年)

400m自由形 1位 井手 葵(1年)

200m個人メドレー 4位 四月一日大弥(1年)

300m個人メドレー 3位 米田 裕(2年)

熊本県春季選手権水泳競技大会 (1月8日)

アクアドームくまもと

男子

50m自由形 2位 森本 勇気(3年)

4位 若杉 拓翔(3年)

1000m自由形 1位 森本 勇気(3年)

3位 若杉 拓翔(3年)

200m自由形 2位 若杉 拓翔(3年)

800m自由形 2位 若杉 拓翔(3年)

400m自由形 3位 森本 勇気(3年)

100m自由形 3位 井手 葵(2年)

50m背泳ぎ 5位 鈴木 煌(2年)

1000m背泳ぎ 6位 吉永 新汰(2年)

2000m背泳ぎ 2位 吉永 新汰(2年)

1000m背泳ぎ 2位 黒木 優大(2年)

300m背泳ぎ 3位 吉永 新汰(2年)

1000m背泳ぎ 2位 吉永 新汰(2年)

2000m背泳ぎ 2位 大久保和温(2年)

200mバタフライ 2位 井手 葵(2年)

300m個人メドレー 3位 津地 佑輔(2年)

400m個人メドレー 6位 津地 佑輔(2年)

500m個人メドレー 3位 米田 裕(2年)

500m個人メドレー 5位 黒木 優大(2年)

50m自由形 2位 奥村くらら(2年)

200m自由形 1位 橋本 希美(3年)

400m自由形 1位 井手 葵(1年)

200m個人メドレー 4位 四月一日大弥(1年)

300m個人メドレー 3位 米田 裕(2年)

1000m背泳ぎ 2位 奥村くらら(2年)

2000m背泳ぎ 2位 奥村くらら(2年)

1000m背泳ぎ 3位 中山 花凛(1年)

50m背泳ぎ 2位 田尻 千明(1年)

1000m背泳ぎ 2位 奥村くらら(2年)

2000m背泳ぎ 2位 奥村くらら(2年)

1000m背泳ぎ 2位 奥村くらら(2年)

第8回校島カップ水泳競技大会 (4月2日～3日)

鴨池公園水泳プール

17歳以上男子

100m自由形 3位 森本 勇気(3年)

200m自由形 5位 若杉 拓翔(3年)

400m自由形 4位 森本 勇気(3年)

600m自由形 6位 若杉 拓翔(3年)

800m自由形 7位 森本 勇気(3年)

1000m自由形 100m背泳ぎ 1位 森本 勇気(3年)

200m背泳ぎ 1位 森本 勇気(3年)

400m背泳ぎ 1位 森本 勇気(3年)

800m背泳ぎ 1位 森本 勇気(3年)

1000m背泳ぎ 1位 森本 勇気(3年)

2000m背泳ぎ 1位 森本 勇気(3年)

1000m自由形 1位 永野 結笑(2年)

400m自由形 1位 永野 結笑(2年)

1000m自由形 1位 永野 結笑(2年)

400m自由形 1位 永野 結笑(2年)